

T K C 関東信越会茨城支部が県内の 地方銀行、信用金庫、信用保証協会とのトップ対談を実施

T K C 関東信越会茨城支部は、本年7月までに県内の地方銀行、信用金庫、信用保証協会とのトップ対談を実施しました。今号は、結城信用金庫および茨城県信用保証協会とのトップ対談の模様を掲載いたします。

「金融機関トップ対談」シリーズ

T K C 関東信越会茨城支部

結城信用金庫・石塚清博理事長との対談

■とき…令和8年6月3日(水) ■ところ…結城信用金庫本店会議室

6年半ぶりのトップ対談が実現

増山(会長) 関東信越会茨城支部では県内金融機関との「顔の見える関係」構築を目指してトップ対談を実施しております。

この度、結城信用金庫様と6年半ぶりの対談が実現し、大変嬉しく思います。本日はどうぞよろしくお願い致します。

石塚(理事長) 本日は、T K C 関東信越会・茨城支部とのトップ対談の機会をいただき、ありがとうございます。

当庫では本日出席されている赤岩茂先生に監事を務めていただいております。

本日の対談をきっかけに、T K C の会員先生方とさらなる連携強化ができればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

企業支援等において、例えば、「人件費」という言葉一つを取っても、人によって頭の中に思い浮かべる内容が違います。金融や会計の分野では、用語の定義や前提条件をきちんと整理することが重要と考えています。その点において、金融機関向けに制作いただいた動画「T K C F O C U S」を視聴し、中小会計要領に基づく会計処理を行うことは非常に有意義だと考えます。

増山(会長) おっしゃる通りです。私たちは月次巡回監査、自計化支援、経営計画策定支援を通じて、中小企業の財務経営力向上を支援しています。経営者が自社の数字を正しく理解し、金融機関へ自分の言葉で説明できるようになることが大切です。

定量情報と定性情報のバランスが重要

石塚(理事長) 当庫では企業評価の際には、定量情報と定性情報のバランスが大切だと考えています。決算書の数字はもちろん重要ですが、それだけでは企業の実態は分かりません。実際に直接社長と会って、話を聞いて、現場を見て初めて分かることがあります。

A I や I T はもちろん大切です。しかし、それだけでは強みにはなりません。当庫の強みは、お客様との距離の近さにあります。お客様と日常的に接し、ちよっ



結城信用金庫・石塚理事長（前列中央）を囲んで。右隣に増山会長

とした変化に気付けること。それが私たちの役割だと考えています。

赤岩（顧問） これからは「事実と記録の照合」の時代だと思っています。クラウド化が進み、帳簿や請求書は事務所でも確認できます。しかし実際に工場へ行くと、新しい設備が入っていることがあります。その設備が決算書にきちんと反映されているか。社長の話と数字が一致しているか。これは現場に行かなければ

分かりません。現地へ行き、現物を見て、人に会う。TKC全国会が大切にしてきた「現地・現物・現人」は、これからますます重要になると思っています。数字だけを見ても企業の実態は分かりません。実際に経営者と会って話を聞き、現場を見ることで初めて理解できることがあります。

3者による「決算報告会」開催を

増山（会長） 金融機関との連携施策として、企業・金融機関・TKC会員事務所の3者での決算報告会に取り組んでいます。実際に金融機関の前で自分の会社の決算や将来の方針を説明すると、経営者自身の理解が深まります。金融機関からの質問に答えることで気付きも生まれますし、終わった後には、経営者から「やって良かった。また来年もやろう」という声をいただいています。

石塚（理事長） 企業を見る上で一番大事なのは、やはり経営者の考え方を理解することだと思っています。数字を見ることはもちろん大事ですが、その背景にある思いや考え方で共有していただける

のは非常に有意義ですね。ぜひ取り組んでいきましょう。

湯原（支部長） これまでのお話を踏まえ、今後、①各ブロック会への参加、②決算報告会（企業、金融機関、TKC会員の3者）、③職員向け研修の実施——を提案したいと思っています。

石塚（理事長） 地域企業を支えるパートナーとしてぜひ連携していきましょう。よろしく願います。

増山（会長） 本日の対談で互いの取り組みについて、理解を深めることができました。結城信用金庫様とTKC会員事務所とが地域企業の良き支援者として連携し、「顔の見える関係」構築をさらに発展させていきたいと思っています。よろしく願います。

（茨城SCGサービスセンター長 根本一徳）

出席者（敬称略）

■ 結城信用金庫

理事長	石塚清博
常務理事	石島 陸
理事	堀江一也

■ TKC関東信越会茨城支部

関東信越会会長	増山英和
支部長	湯原 拓
支部顧問	赤岩 茂

茨城県信用保証協会・小泉元伸会長との対談

■とき…令和8年7月22日(水) ■ところ…茨城県信用保証協会応接室

「信頼できる決算書」と

TKCモニタリング情報サービス

増山(会長) 本日はお忙しい中お時間をいただき、ありがとうございます。まず「信頼できる決算書とは」というテーマで「TKC FOCUS」動画をご覧いただきました。

ぜひ、率直なご意見を伺いながら、今後の連携につながる意見交換ができればと思います。

小泉(会長) こちらこそありがとうございます。

TKCモニタリング情報サービスについては、令和6年度から利用させていただいていますが、本当に有効なサービスだと感じています。現在は保証審査の参考資料として活用することが多いのですが、これから予兆管理を強化していく

えでは、月次の情報がデータとして届くことは非常に価値があると思っています。

増山(会長) ありがとうございます。

やはり年に1回の決算書だけでは見えな部分がありますからね。

小泉(会長) その通りです。県内企業の約45%ほどが保証協会をご利用いただいています。当然ながら全社を常時見続けることはできません。だからこそ、金融機関やTKC会員事務所の皆さんと連携しながら、異変や兆候が現れた段階で情報を共有できる仕組みが重要だと思っています。

湯原(支部長) 私たちは毎月巡回監査を行っていますので、経営者の変化や会社の変化を早い段階で感じることがあります。

計画と実績を比較し、昨年との違いを確認し、「TKC経営指標」との比較も

出席者 (敬称略)

■茨城県信用保証協会

会長	小泉元伸
常務理事	平山桂己

■TKC関東信越会茨城支部

関東信越会会長	増山英和
支部長	湯原 拓
支部中小企業支援委員長	常行卓郎

行う。その中で経営者と一緒に課題を確認していくことが月次巡回監査の大きな役割だと思っています。

現場での対話が生み出す 早期経営支援

平山(常務理事) 当保証協会では今年度、大きな組織改編を行いました。保証経営支援課を設置して、単なる審査だけではなく、早めの経営支援を行う体制へ切り替えています。

湯原(支部長) 早めの支援という考え方は、私たちもまったく同じです。

平山(常務理事) リスケジュールしてから支援を始めるのでは遅いんです。少



茨城県信用保証協会・小泉会長（右から2人目を囲んで。左隣に増山会長

しても異変を感じた段階で現地へ行き、金融機関や支援機関と連携しながら対応する。そこに力を入れています。

小泉（会長） 企業が急に悪くなるケースは決して多くありません。何らかの兆候は前から出ています。その兆候に早く気づき、早く支援につなげられるのが大切です。

増山（会長） 私たちは毎月会社にお伺いして、数字を確認するだけでなく、社長と直接対話しています。

だからこそ企業の現状や変化を誰よりも早く把握できる。その積み重ねが予兆管理につながり、金融機関や保証協会との連携による早期経営支援にもつながるのだと思います。

「モニタリング強化型特別保証制度」の活用と地域中小企業支援

増山（会長） 令和8年3月からスタートした「モニタリング強化型特別保証制度」については、TKC全国会としても積極的に活用を推進しています。

認定経営革新等支援機関による継続的なモニタリングを前提に、国が保証料の2分の1を補助する制度ですので、中小企業にとっても活用メリットの大きい制度だと思っています。

小泉（会長） 保証協会としても非常に期待している制度です。企業の実況を定期的に把握しながら、金融機関、保証協会、支援機関が一緒になって支援していく。まさにこれから求められる伴走支援

の形だと思っています。

平山（常務理事） 今後も制度の活用を進めながら、中小企業の持続的な発展につながる支援体制を構築していきたいと考えています。

小泉（会長） 本日お話を伺っていて、私どもが目指している方向とTKCの先生方が取り組まれている方向は同じだと改めて感じました。企業が厳しい状況になつてからではなく、兆候が見えた段階で支援につなげる。そのためには、金融機関、保証協会、税理士がそれぞれ持っている情報や気づきを共有することが大切だと思っています。

ぜひ今後も継続的に情報交換を行いながら、一緒に地域企業を支えていきたいと思います。よろしく願います。

増山（会長） ありがとうございます。

私たちも、月次巡回監査や決算報告会を通じて経営者との対話を重ねています。その中で得られた気づきや情報を、金融機関や保証協会の皆さまと共有しながら、地域中小企業の成長と発展を支援していきたいと考えています。

引き続きよろしく願います。

（茨城SCGサービスセンター長 根本一徳）